

【NRCLレポート】

SDGs・社会的課題に関する生活者意識調査 ESG投資を支える女性の「社会的期待」

2020年8月調査結果

2020年11月

NR 日本リサーチセンター
Member of WIN and Gallup International Association



調査の背景・目的

私ども日本リサーチセンターでは、企業・団体様でのSDGs推進支援を目的として、各種の自主調査を実施してきました。今回は、「ESG投資」に関する生活者の意識について調査を実施いたしました。

これまでESG投資は、機関投資家が中心とみられてきましたが、経済紙や金融関連機関の各種記事・調査などでは、個人投資家においても活性化しつつある様子も見受けられます。

本レポートでは、一般生活者の「投資と社会意識」に着目し、ESG投資の今後の可能性についてまとめました。

当社では、これからも、さまざまな角度からSDGsに関する調査・サービスを展開してまいります。

【持続可能な開発目標（SDGs）とは】

「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の中で、「誰一人取り残さない」との理念の下に設定された、2030年までに達成すべき国際社会の目標です。

（右表の17項目。その下に169のターゲット、232の指標が決められています。）



国連広報センターより引用

<これまでの調査結果>

- ・2019年7月実施 「SDGsに関する一般生活者の認知・意識調査」
(<https://www.nrc.co.jp/report/191003.html>)
- ・2020年1月実施 「SDGsに関する一般生活者の購買・生活行動調査」
(<https://www.nrc.co.jp/report/200403.html>)
- ・2020年5月実施 社会的課題に関する生活者意識調査結果
（前編）「生活者発想からのSDGsシーズ」(<https://www.nrc.co.jp/report/200626.html>)
（後編）「社会的課題意識を育て、ビジネスの原動力に ～積極層強化とともに、低関心層を取り残さないために～」
(<https://www.nrc.co.jp/report/200709.html>)

調査概要

調査方法

- NOS（日本リサーチセンター・オムニバス・サーベイ）※
- 調査員による個別訪問留置調査

調査対象

- 全国の15～79歳の男女個人 1,200人
- ※エリア・都市規模と性年代構成は、日本の人口構成比に合致するよう割付を行った

抽出方法

- 毎月200地点を抽出、住宅地図データベースから世帯を抽出し個人を割当て

調査期間

- 2020年8月調査（2020年8月4日～8月18日）

調査項目

- 1) SDGsに関する認知
- 2) 投資に100万円使うとしたら、どのような企業に投資したいか・その理由
- 3) ESG投資の認知、関心、投資意向
- 4) 金融資産の保有状況、保有意向 など

※NOS（日本リサーチセンター・オムニバス・サーベイ）について

調査パネルを使ってインターネットで簡単に情報収集できる時代の中、NOSでは、50年以上にわたって、

①調査員を使った訪問留置、②パネルモニターではない毎回抽出方式で調査を継続しており、代表性のある信頼性の高いデータを提供しております。

NOSは、定期的を実施する乗り合い形式（オムニバス）の調査です。

ランダムに決められた200地点にて、毎回、対象となる方に調査員が協力を依頼してアンケートを回収します。

性年代構成を日本の人口構成比に合わせているため、全体結果は日本を代表する意見としてそのままご覧になることができます。

インターネット調査では回収が難しい60代以上の対象者、インターネットを使っていない人の実態や意識を分析するのにも有用な手法といえます。

↓ぜひNOSご案内ページをご覧ください

<https://www.nrc.co.jp/solution/nos/index.html>

【ESG投資とは？】

「**ESG投資**」とは、企業の財務情報（売上高・利益など）だけでなく、**環境（Environment）**・**社会（Social）**・**ガバナンス（Governance）**のような「**非財務情報**」も重視して行う投資です。

ESGに配慮しない企業（例：環境問題を引き起こす、ジェンダーや人種による差別をする、法令を守らない…）は、どんなに経済的に成果をあげても、市場からの評価は高まらずやがて消滅に向かうと考えられます。

一方で、ESGに向き合い、配慮する企業は、長期的な観点からより選ばれるようになり、持続性があり、成長も見込まれるため、経済的な利益ももたらすと考えられています。

これは世界的な潮流ともなっており、日本でも、公的年金を運用する年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）※ が、ESG投資を2017年に開始したことにより、その動きが加速しています。

金融機関でのESG投資関連商品の販売も進んでおり、大手保険会社でも全資産に対する投資等の判断にESG評価を取り入れるという動きが、つい最近でもニュースになっています。

2030年が達成目標年限とされているSDGsとESG投資は、相互に密接な関係にあることから、より広がりを見せていくものと期待されます。

※2019年6月末現在で160兆円超の資産を有し、世界最大の機関投資家といわれている

【調査結果サマリー・ESG投資の今後に向けて】

●SDGsの内容理解は進みつつあるが、ESG投資の認知率は低い

SDGsの認知は昨年7月調査に比べて「内容まで知っている」が3.4%から8.6%と5ポイント上昇。
一方、ESG投資の内容認知率は1.8%と低く、「言葉は聞いたことがある」まで含めても17.1%と2割に届かず（P5）。

●社会性ある取り組みへの投資理由は、男性＝“経済的期待”、女性＝“社会的期待”

もし100万円を投資に使うとしたときに最も投資したい企業は、コロナの影響もあってか、「先端技術の開発・商品化に取り組む企業」（投資意向者の16.2%）「保健・医療環境・技術の向上に取り組む企業」（同14.3%）が高い（P6）。
その選択・理由には男女差がみられ、男性は「先端技術の開発商品化に取り組む企業」に「今後成長し、株価の値上がり期待できるから」、女性は「保健・医療環境・技術の向上に取り組む企業」に「社会の役に立つ企業を応援したいから」という理由で投資意向を持つ人が多い（P7、P9）。男性は“経済的な期待”、女性は“社会的な期待”を持って投資対象を選ぶ傾向がみられる。

●「ESG投資」は、若年層、女性層に投資意向の萌芽がみられる

「ESG投資」興味・関心率は11.5%、投資意向率は8.8%と全体の10%程度。しかし、一般的な「投資性のある商品」のへの興味・関心が男性中心であるのに対し、ESG投資では男性20代、女性40代での投資意向率がやや高い（P11）。

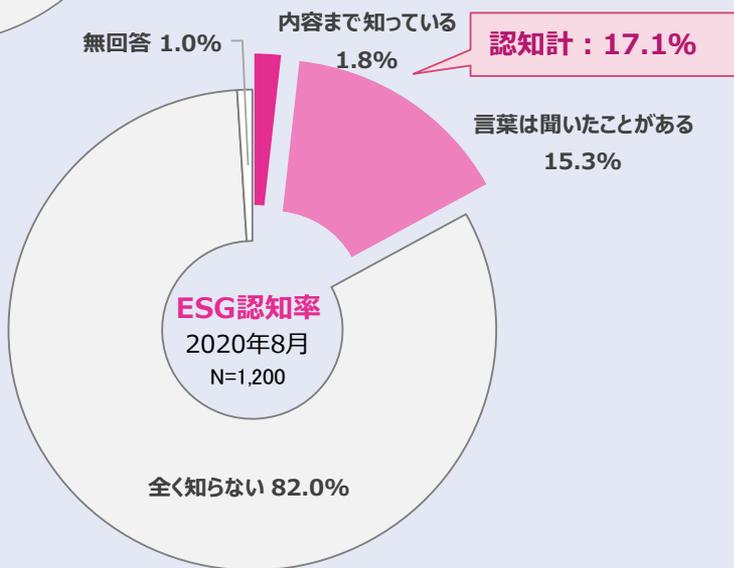
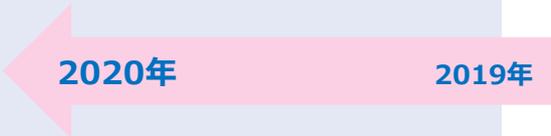
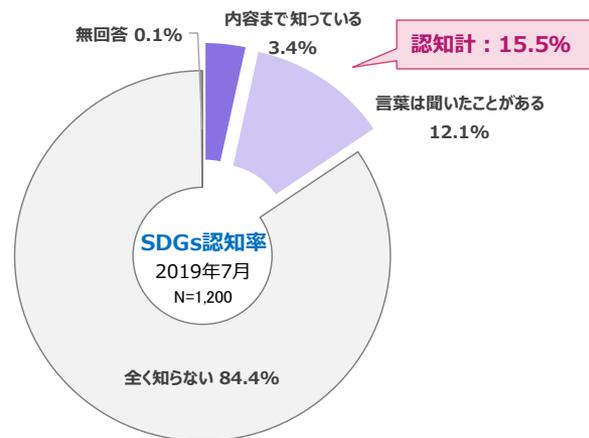
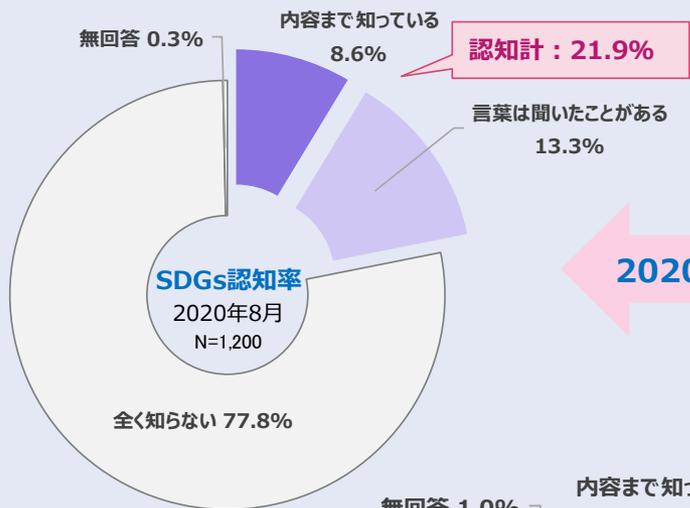
ESG投資の今後に向けて：女性の「社会的期待」によるESG投資拡大へ

これまでの金融・投資の世界は、「男性」「高年齢層」が購入層の中心とみられてきた。しかし、低成長経済を背景に「貯蓄から投資へ」の流れの中、NISAやiDeCoなどの金融政策とともに、若年層や女性層をターゲットにした各社商品・サービスの展開もここ数年で進んでいる。

「ESG投資」については、「ESG」という言葉自体の浸透はまだこれからという結果ではあったが、若年層、女性層には“ESG投資マインド”の兆しがみられる。特に女性層は、経済性よりも社会的期待から投資先を選択する傾向がみられ、ESG投資の拡大を後押しする存在として期待される。

SDGs、ESG投資の認知・興味・関心

- ◆ 「SDGs」の認知率は21.9%。うち、「内容まで知っている」のは8.6%で約1年前の調査（3.4%）から5ポイント増加している。これに伴い、「全く知らない」は84.4%⇒77.8%へと7ポイント低下。
- ◆ 「ESG投資」の認知率は17.1%。うち、「内容まで知っている」のはわずか1.8%にとどまり、SDGsの内容認知水準には届かない。



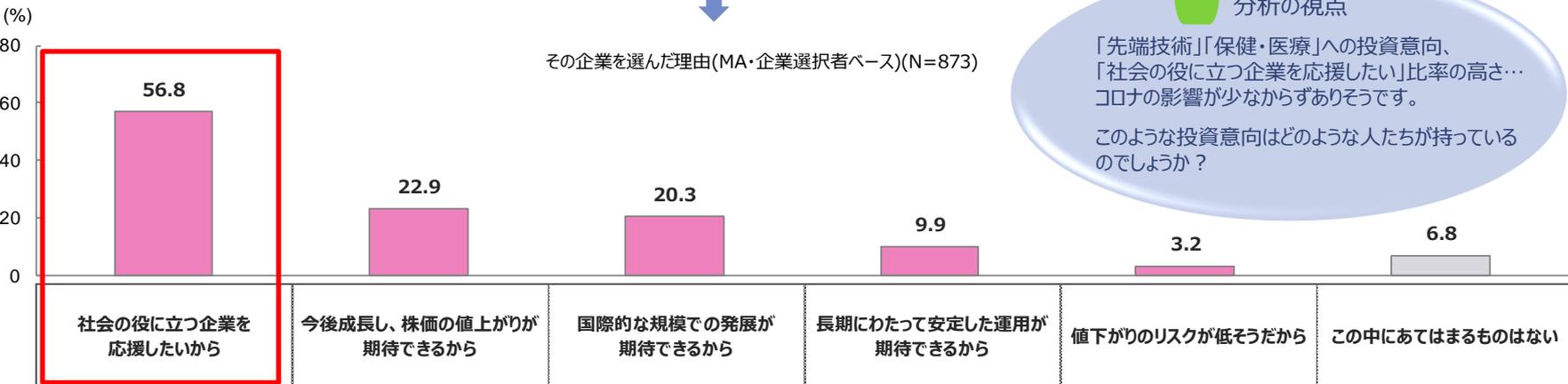
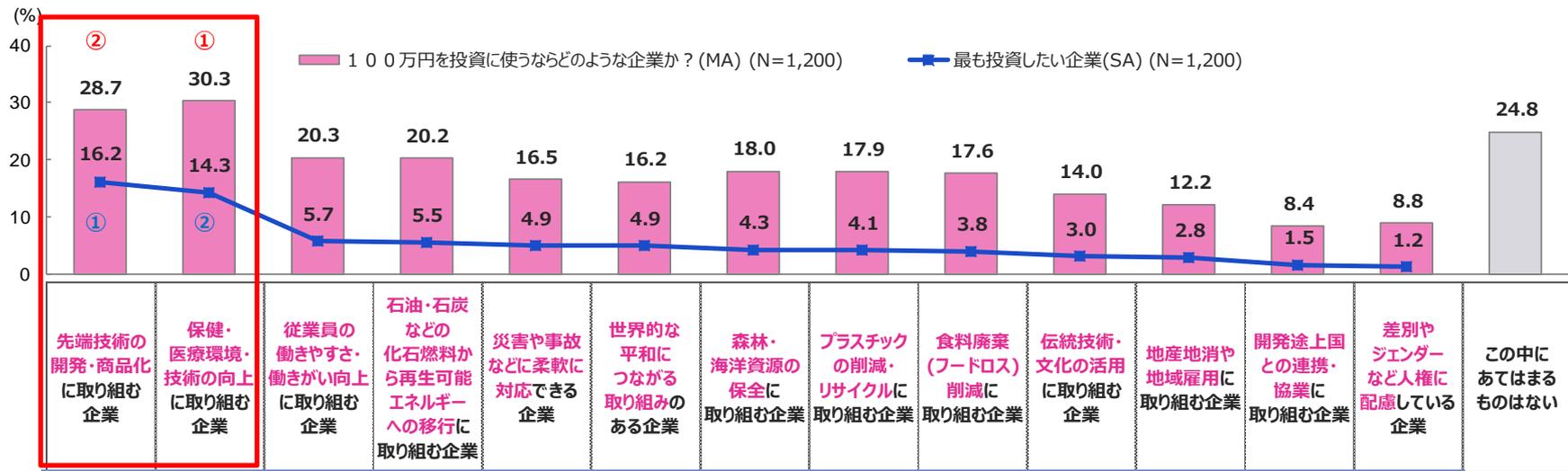
分析の視点

「SDGs」は少しずつ内容や言葉の認知が進んでいるようです。

一方、「ESG投資」の認知はまだこれからと思われませんが、言葉は知らなくても、「ESG投資マインド」は人々の中にあるのでしょうか？

社会性ある取り組みへの投資意向①

- ◆ 仮に100万円を投資に使うとした場合、どのような取り組みのある企業に投資したいかについて尋ねた。複数回答では、「保健・医療環境・技術の向上に取り組む企業」への投資意向が30.0%と最も高く、コロナ禍の影響も考えられる。次いで「先端技術の開発・商品化に取り組む企業」(28.7%)で続く。最も投資したい企業(単数回答)でもこの2つが上位。
- ◆ その企業を投資対象として選ぶ理由(企業選択者ベース)は、「社会の役に立つ企業を応援したいから」(56.8%)が特に高い。



社会性ある取り組みへの投資意向②

- ◆ 最も投資したい企業と選択理由を性・年代別でみると、「先端技術の開発・商品化に取り組む企業」は男性20代・30代・50代で全体に比べて高い。また、理由のトップである「社会の役に立つ企業を応援したいから」は女性、「今後成長し、株価の値上がり」が期待できるから」は男性の方が高い傾向。

		100万円を投資に使うならどのような企業か？(SA)														その企業を選んだ理由(MA)					
		N														N					
		先端技術の開発・商品化に取り組む企業	保健・医療環境・技術の向上に取り組む企業	従業員の働きやすさ・働きがい向上に取り組む企業	石油・石炭などの化石燃料から再生可能エネルギーへの移行に取り組む企業	世界的な平和につながる取り組みのある企業	災害や事故などに柔軟に対応できる企業	森林・海洋資源の保全に取り組む企業	プラスチックの削減・リサイクルに取り組む企業	食料廃棄(フードロス)削減に取り組む企業	伝統技術・文化の活用に取り組む企業	地産地消や地域雇用に取り組む企業	開発途上国との連携・協業に取り組む企業	差別やジェンダーなど人権に配慮している企業	社会の役に立つ企業を応援したいから	今後成長し、株価の値上がり期待できるから	国際的な規模での発展が期待できるから	長期にわたって安定した運用が期待できるから	値下がりリスクが低そうだから		
	全体	1,200	16.2	14.3	5.7	5.5	4.9	4.9	4.3	4.1	3.8	3.0	2.8	1.5	1.2	873	56.8	22.9	20.3	9.9	3.2
性×年代	男性小計	592	22.0	11.1	5.4	5.7	3.2	4.2	4.2	4.2	3.9	2.5	3.7	2.4	0.8	440	47.5	32.0	21.4	10.9	3.9
	15～19才	37	16.2	13.5	0.0	5.4	5.4	0.0	0.0	0.0	8.1	2.7	0.0	5.4	2.7	22	40.9	45.5	31.8	9.1	4.5
	20～29才	75	25.3	5.3	13.3	8.0	4.0	6.7	2.7	0.0	5.3	1.3	2.7	1.3	1.3	58	53.4	24.1	20.7	8.6	5.2
	30～39才	95	20.0	15.8	6.3	3.2	4.2	5.3	4.2	5.3	3.2	1.1	6.3	0.0	0.0	73	45.2	34.2	26.0	11.0	2.7
	40～49才	111	21.6	12.6	4.5	4.5	1.8	4.5	5.4	5.4	2.7	3.6	2.7	2.7	0.9	81	44.4	35.8	19.8	13.6	6.2
	50～59才	93	19.4	8.6	5.4	6.5	6.5	6.5	6.5	3.2	3.2	1.1	6.5	4.3	2.2	76	51.3	31.6	18.4	11.8	3.9
	60～69才	108	24.1	12.0	1.9	6.5	0.9	2.8	3.7	8.3	3.7	3.7	4.6	3.7	0.0	82	48.8	26.8	24.4	11.0	3.7
	70～79才	73	24.7	9.6	5.5	6.8	1.4	1.4	4.1	2.7	4.1	4.1	0.0	0.0	0.0	48	43.8	35.4	12.5	8.3	0.0
	女性小計	608	10.5	17.3	5.9	5.3	6.6	5.6	4.3	3.9	3.8	3.5	1.8	0.7	1.5	433	66.3	13.6	19.2	8.8	2.5
	15～19才	37	10.8	13.5	5.4	5.4	5.4	5.4	8.1	2.7	5.4	8.1	0.0	0.0	8.1	29	69.0	10.3	17.2	3.4	3.4
	20～29才	73	6.8	24.7	4.1	4.1	9.6	6.8	5.5	1.4	1.4	0.0	0.0	2.7	49	71.4	22.4	22.4	8.2	4.1	
	30～39才	92	16.3	19.6	8.7	3.3	6.5	5.4	5.4	4.3	7.6	4.3	1.1	0.0	1.1	78	70.5	15.4	20.5	3.8	2.6
	40～49才	110	13.6	18.2	9.1	7.3	3.6	5.5	3.6	6.4	4.5	2.7	1.8	0.9	1.8	87	54.0	18.4	20.7	10.3	5.7
	50～59才	93	6.5	20.4	2.2	6.5	7.5	6.5	5.4	4.3	4.3	6.5	3.2	1.1	0.0	70	62.9	10.0	14.3	12.9	0.0
60～69才	114	12.3	9.6	6.1	4.4	7.0	7.0	3.5	2.6	3.5	2.6	1.8	0.9	0.0	71	73.2	11.3	18.3	4.2	0.0	
70～79才	89	5.6	15.7	4.5	5.6	6.7	2.2	1.1	4.5	0.0	2.2	3.4	1.1	1.1	49	69.4	4.1	20.4	18.4	2.0	



分析の視点

大きく分けると、

- ・「先端技術」
- 経済性期待
- 男性
- ・「保健・医療」
- 社会性期待
- 女性

という状況です。

男性は、経済性を追求する投資指向性が強い一方、女性は社会貢献的視点が強く、ESG投資との親和性が高そうにみえます。

さらに、次で投資意向先企業と理由の関係をみてみます。

社会性ある取り組みへの投資意向③

- ◆ 最も投資したい企業（SA）と選択理由との関係を見ると、「先端技術の開発・商品化に取り組む企業」については「今後成長し、株価の値上がりが期待できるから」、「保健・医療環境・技術の向上に取り組む企業」では「社会の役に立つ企業を応援したいから」が主な選択理由となっている。また、「災害や事故などに柔軟に対応」「プラスチックの削減・リサイクル」「地産地消や地域雇用」に取り組む企業を選ぶ理由でも、「社会の役に立つ企業を応援したいから」が高い。

(%)

全体より+10p
 -10p

	N	その企業を選んだ理由(MA)				
		社会の役に立つ企業を応援したいから	今後成長し、株価の値上がりが期待できるから	国際的な規模での発展が期待できるから	長期にわたって安定した運用が期待できるから	値下がりリスクが低そうだから
全体	873	56.8	22.9	20.3	9.9	3.2
1 0 0 万円を投資に使うならどのような企業か？(SA)						
先端技術の開発・商品化に取り組む企業	194	28.4	60.8	28.4	8.2	2.6
保健・医療環境・技術の向上に取り組む企業	171	71.9	12.9	19.3	12.9	3.5
従業員の働きやすさ・働きがい向上に取り組む企業	68	66.2	10.3	2.9	19.1	4.4
石油・石炭などの化石燃料から再生可能エネルギーへの移行に取り組む企業	66	47.0	30.3	28.8	13.6	3.0
世界的な平和につながる取り組みのある企業	59	61.0	6.8	27.1	6.8	0.0
災害や事故などに柔軟に対応できる企業	59	84.7	3.4	3.4	5.1	6.8
森林・海洋資源の保全に取り組む企業	51	66.7	3.9	21.6	5.9	2.0
プラスチックの削減・リサイクルに取り組む企業	49	67.3	16.3	28.6	12.2	4.1
食料廃棄（フードロス）削減に取り組む企業	46	65.2	17.4	17.4	4.3	0.0
伝統技術・文化の活用に取り組む企業	36	47.2	5.6	8.3	11.1	8.3
地産地消や地域雇用に取り組む企業	33	75.8	3.0	3.0	6.1	0.0
開発途上国との連携・協業に取り組む企業	18	27.8	27.8	38.9	0.0	5.6
差別やジェンダーなど人権に配慮している企業	14	50.0	0.0	35.7	14.3	7.1

はN=30未満のため参考値



分析の視点

「先端技術」は投資効果という“経済的な期待”、「保健・医療」は“社会的な期待”がそれぞれの投資意向の背景になっているようです。次に、それぞれ性別での特徴をみてみます。

社会性ある取り組みへの投資意向④

- ◆ 最も投資したい企業（SA）と選択理由との関係について性別でみた。
「先端技術の開発・商品化に取り組む企業」については、男性では「今後成長し、株価の値上がりが期待できるから」が全体に比べて高く、女性では「国際的な規模での発展が期待できるから」「社会の役に立つ企業を応援したいから」が高い。
- ◆ 「保健・医療環境・技術の向上に取り組む企業」については、男性は「今後成長し、株価の値上がりが期待できるから」が全体に比べて高く、女性では「社会の役に立つ企業を応援したいから」が高い。

(%)

		「先端技術の開発・商品化に取り組む企業」を選んだ理由(MA)				
N		今後成長し、 株価の値上がりが 期待できるから	国際的な規模での 発展が期待できるから	社会の役に立つ企業 を応援したいから	長期にわたって 安定した運用が 期待できるから	値下がりリスクが 低そうだから
全体	194	60.8	28.4	28.4	8.2	2.6
性別	男性	66.9	24.6	23.8	6.2	2.3
	女性	48.4	35.9	37.5	12.5	3.1

(%)

		「保健・医療環境・技術の向上に取り組む企業」を選んだ理由(MA)				
N		社会の役に立つ企業 を応援したいから	今後成長し、 株価の値上がりが 期待できるから	国際的な規模での 発展が期待できるから	長期にわたって 安定した運用が 期待できるから	値下がりリスクが 低そうだから
全体	171	71.9	12.9	19.3	12.9	3.5
性別	男性	59.1	24.2	24.2	15.2	3.0
	女性	80.0	5.7	16.2	11.4	3.8



分析の視点

「先端技術」の“社会的な期待”“国際的な期待”は、女性がより強く持っているようです。投資対象を、こうした経済以外の視点でも選ぶという意向は、ESG投資にとって追い風になるかもしれません。

ESG投資への興味・関心、投資意向①

- ◆ 「ESG投資」の概要を説明したうえで興味・関心があるかをたずねたところ、興味・関心度（興味・関心あり計）は11.5%。「ESGに配慮している企業」への投資意向については、投資意向率（投資意向あり計）は8.8%。
- ◆ 一方で、「投資性のある金融商品」へ興味・関心度は18.3%となっており、「ESG投資」の興味・関心度はこれを7ポイントほど下回る。

【提示説明文】「ESG投資」とは以下のようなものです。

従来のような企業の財務情報（売上高や利益など）だけでなく、環境（Environment）・社会（Social）・ガバナンス（Governance：企業統治）の点も考慮・評価する投資。ESGに配慮している企業は、持続的な経営・成長が見込めるとも考えられています。



分析の視点

「ESG投資」を説明したうえでの興味・関心度、投資意向は、1割程度にとどまり、従来型の「投資性のある金融商品」への興味・関心度の方が、ESG投資よりも高くなっています。

逆に言うと、ESG投資はまだこれから、という考え方もできます。今はどのような人が興味・関心を持っているのでしょうか。

ESG投資への興味・関心、投資意向②

- ◆ 前ページの各質問の興味・関心あり、意向ありを性・年代別でみると、「ESG投資」興味・関心度は、わずかではあるが、男性は20代・50代、女性は30代・40代が全体に比べてやや高め。
- ◆ 「ESGに配慮している企業」投資意向は、男性20代、女性40代で全体に比べて5ポイント以上高い。
- ◆ 「投資性のある金融商品（国債、株式、投資信託など）」の興味・関心度をみると、男性は20代・30代・50代・70代の各年代層で全体に比べて5ポイント以上高い。一方、女性で高いのは30代のみとなっており、10代と50代以上では全体に比べて低い。

		N	ESG投資 興味・関心あり計	ESGに配慮している企業への 投資意向あり計	投資性のある金融商品 興味・関心あり計
全体		1,200	11.5	8.8	18.3
性 × 年 代	男性小計	592	11.7	8.8	22.1
	15～19才	37	8.1	5.4	10.8
	20～29才	75	16.0	14.7	24.0
	30～39才	95	11.6	7.4	24.2
	40～49才	111	9.0	8.1	21.6
	50～59才	93	16.1	11.8	26.9
	60～69才	108	10.2	7.4	17.6
	70～79才	73	9.6	5.5	24.7
	女性小計	608	11.3	8.7	14.5
	15～19才	37	8.1	13.5	5.4
	20～29才	73	11.0	8.2	19.2
	30～39才	92	14.1	7.6	23.9
	40～49才	110	15.5	15.5	18.2
	50～59才	93	9.7	6.5	10.8
60～69才	114	8.8	6.1	10.5	
70～79才	89	10.1	5.6	9.0	



分析の視点

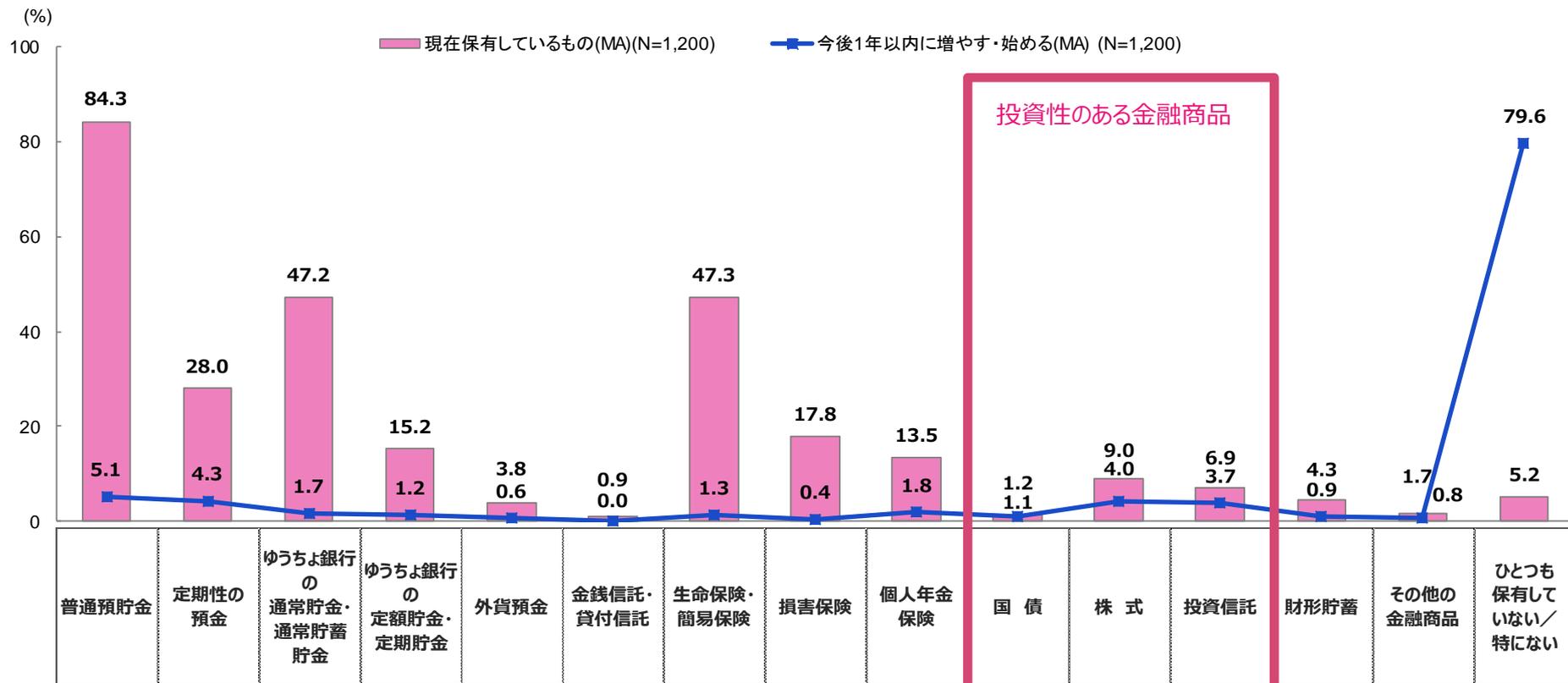
先ほどの「100万円の投資先」の質問と似たような結果となっています。

男性は広い年代で、従来型の「投資のある金融商品」の興味・関心が高いですが、女性は限定的です。

ESG投資は、興味・関心度、投資意向度ともに差は小さいですが、男性20代、女性40代などでの反応がみられます。

従来の投資は、「男性」「高齢層」が市場の中心と言われてきましたが、ESG投資が浸透することで、その構図が少しずつ変わってくるのかもしれない。

(参考・回答者属性) 金融商品などの保有状況①



※2019年7月：国債 1.5%、株式 11.2%、投資信託 6.8%

(参考・回答者属性) 金融商品などの保有状況②

(%)



N

投資性のある金融商品

性×年代	N	普通 預貯金	定期性の 預金	ゆうちょ 銀行の 通常貯金・ 通常貯蓄 貯金	ゆうちょ 銀行の 定額貯金・ 定期貯金	外貨預金	金銭信託・ 貸付信託	生命保険・ 簡易保険	損害保険	個人年金 保険	投資性のある金融商品			財形貯蓄	その他の 金融商品	ひとつも 保有して いない/ 特にな い
											国債	株 式	投資信託			
全体	1,200	84.3	28.0	47.2	15.2	3.8	0.9	47.3	17.8	13.5	1.2	9.0	6.9	4.3	1.7	5.2
男性小計	592	82.3	28.4	41.0	11.0	4.1	1.2	47.6	22.5	15.7	1.4	12.3	9.5	6.4	1.7	7.1
15～19才	37	35.1	0.0	32.4	2.7	0.0	0.0	10.8	2.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	43.2
20～29才	75	78.7	9.3	37.3	2.7	0.0	0.0	22.7	12.0	9.3	1.3	6.7	5.3	5.3	1.3	5.3
30～39才	95	84.2	16.8	36.8	4.2	3.2	0.0	48.4	17.9	18.9	1.1	7.4	6.3	8.4	1.1	4.2
40～49才	111	90.1	35.1	34.2	6.3	5.4	0.0	54.1	21.6	22.5	1.8	9.0	5.4	14.4	1.8	0.9
50～59才	93	88.2	30.1	48.4	11.8	4.3	3.2	67.7	32.3	24.7	0.0	21.5	12.9	7.5	3.2	4.3
60～69才	108	86.1	43.5	44.4	18.5	6.5	1.9	56.5	29.6	13.9	0.9	15.7	13.0	2.8	2.8	8.3
70～79才	73	82.2	42.5	50.7	27.4	5.5	2.7	42.5	27.4	6.8	4.1	19.2	19.2	0.0	0.0	5.5
女性小計	608	86.3	27.6	53.1	19.2	3.5	0.7	46.9	13.3	11.3	1.0	5.8	4.4	2.3	1.6	3.3
15～19才	37	62.2	2.7	43.2	5.4	0.0	0.0	13.5	5.4	0.0	0.0	2.7	0.0	0.0	0.0	21.6
20～29才	73	80.8	5.5	49.3	8.2	2.7	1.4	24.7	4.1	1.4	0.0	1.4	1.4	0.0	1.4	6.8
30～39才	92	91.3	19.6	47.8	7.6	2.2	0.0	52.2	14.1	13.0	3.3	5.4	4.3	5.4	4.3	0.0
40～49才	110	86.4	22.7	60.0	21.8	3.6	0.0	54.5	16.4	13.6	0.0	4.5	4.5	4.5	1.8	0.9
50～59才	93	91.4	31.2	54.8	14.0	6.5	0.0	60.2	15.1	25.8	0.0	5.4	5.4	3.2	1.1	1.1
60～69才	114	87.7	47.4	57.0	32.5	5.3	1.8	56.1	16.7	11.4	2.6	6.1	7.9	0.9	0.9	2.6
70～79才	89	88.8	41.6	50.6	31.5	1.1	1.1	38.2	13.5	4.5	0.0	12.4	3.4	0.0	1.1	2.2



分析の視点

投資性のある金融商品（特に株式、投資信託）は、「男性50代以上」での保有率が高くなっています。

テーマ:「社会的活動」についてお伺いします

【すべての方に】

問1 あなたは「SDGs(エス・ディ・ジーズ、Sustainable Development Goals : 持続可能な開発目標)」という言葉を知っていますか。(〇は1つだけ)

- 1 内容まで知っている 2 言葉は聞いたことがある 3 全く知らない

テーマ:「金融商品に対する意識」についてお伺いします

【すべての方に】

問1 次にあげる金融商品のうち、現在、あなたご自身がお持ちのものをすべてお知らせください。

(〇はいくつでも)

- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| 1 普通預貯金 (ゆうちょ銀行の貯金は除く) | 8 損害保険 |
| 2 定期性の預金 (ゆうちょ銀行の貯金は除く) | (掛け捨て型や年金型商品は除く) |
| 3 ゆうちょ銀行の通常貯金・通常貯蓄貯金 | 9 個人年金保険 (公的年金は除く) |
| 4 ゆうちょ銀行の定額貯金・定期貯金 | 10 国債 (個人向け国債含む) |
| 5 外貨預金 (銀行・ゆうちょ銀行等) | 11 株式 (従業員持株制度による株式を含む) |
| 6 金銭信託・貸付信託 | 12 投資信託 (不動産投信含む) |
| 7 生命保険・簡易保険 | 13 財形貯蓄 |
| (掛け捨て型や年金型商品は除く) | 14 その他の金融商品 |
| | 15 金融商品はひとつも保有していない |

問2 今後1年以内位に、貯蓄を増やしたり、新規にはじめてみようと思う金融商品をお知らせください。

(〇はいくつでも)

- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| 1 普通預貯金 (ゆうちょ銀行の貯金は除く) | 8 損害保険 |
| 2 定期性の預金 (ゆうちょ銀行の貯金は除く) | (掛け捨て型や年金型商品は除く) |
| 3 ゆうちょ銀行の通常貯金・通常貯蓄貯金 | 9 個人年金保険 (公的年金は除く) |
| 4 ゆうちょ銀行の定額貯金・定期貯金 | 10 国債 (個人向け国債含む) |
| 5 外貨預金 (銀行・ゆうちょ銀行等) | 11 株式 (従業員持株制度による株式を含む) |
| 6 金銭信託・貸付信託 | 12 投資信託 (不動産投信含む) |
| 7 生命保険・簡易保険 | 13 財形貯蓄 |
| (掛け捨て型や年金型商品は除く) | 14 その他の金融商品 |
| | 15 特になし |

問3 あなたは、国債・株式・投資信託などといった「投資性のある金融商品」について、どのくらい興味・関心がありますか。(〇は1つだけ)

- 1 興味・関心がある 3 どちらともいえない 4 あまり興味・関心はない
2 やや興味・関心がある 5 興味・関心はない

テーマ:「投資」と「社会性」についてお伺いします

【すべての方に】

問1 ① もし仮に「投資」に100万円使ったら、あなたはどのような企業(の株式やファンド)に投資したいですか。(〇はいくつでも)

※投資を行っていない方も、投資を行うと仮定してお答えください。

- | | |
|--------------------------------------|----------------------------|
| 1 食料廃棄(フードロス)削減に取り組む企業 | 9 森林・海洋資源の保全に取り組む企業 |
| 2 プラスチックの削減・リサイクルに取り組む企業 | 10 地産地消や地域雇用に取り組む企業 |
| 3 石油・石炭などの化石燃料から再生可能エネルギーへの移行に取り組む企業 | 11 差別やジェンダーなど人権に配慮している企業 |
| 4 先端技術の開発・商品化に取り組む企業 | 12 従業員の働きやすさ・働きがい向上に取り組む企業 |
| 5 伝統技術・文化の活用に取り組む企業 | 13 災害や事故などに柔軟に対応できる企業 |
| 6 保健・医療環境・技術の向上に取り組む企業 | 14 この中であてはまるものはない |
| 7 開発途上国との連携・協業に取り組む企業 | |
| 8 世界的な平和につながる取り組みのある企業 | |

② ①で選んだ企業のうち、最も投資したいのはどこですか。(上記①の番号を1つだけ記入)

③ 上記①・②で、その企業を選んだ理由をお知らせください。(〇はいくつでも)

- | | |
|-------------------------|----------------------|
| 1 今後成長し、株価の値上がり期待できるから | 4 国際的な規模での発展が期待できるから |
| 2 長期にわたって安定した運用が期待できるから | 5 社会の役に立つ企業を応援したいから |
| 3 値下りのリスクが低そうだから | 6 この中であてはまるものはない |

改ページ

問2 あなたは、「ESG※投資」をご存じですか。(〇は1つだけ)

※ESG=環境(Environment)・社会(Social)・ガバナンス(Governance:企業統治)の略

- 1 内容まで知っている 2 言葉は聞いたことがある 3 全く知らない

問3 「ESG投資」とは以下のようなものです。

従来のような企業の財務情報(売上高や利益など)だけでなく、環境(Environment)・社会(Social)・ガバナンス(Governance:企業統治)の点も考慮・評価する投資。ESGに配慮している企業は、持続的な経営・成長が見込めるとも考えられています。

① あなたは、「ESG投資」にどのくらい興味・関心がありますか。(〇は1つだけ)

- 1 興味・関心がある 3 どちらともいえない 4 あまり興味・関心はない
2 やや興味・関心がある 5 興味・関心はない

② あなたは、「ESGに配慮している企業」にどのくらい投資してみたいと思いますか。(〇は1つだけ)

- 1 投資してみたい 3 どちらともいえない 4 あまり投資したいと思わない
2 やや投資してみたい 5 投資したいと思わない

改ページ

◆NRCLレポート

日本リサーチセンター(NRC)では、全国15～79歳男女1,200人を対象に、訪問留置のオムニバス調査 (NOS) を、定期的に実施しております。対象者の数は、エリア・都市規模と性年代が日本の人口構成に合致するよう設定していますので、全体結果は、日本全国15～79歳男女の実態や意識をバランスよく反映したものとご覧になれます。

《 引用・転載時のお願い 》

本レポートの外部への引用・転載の際は、下記連絡先にメールにて掲載のご連絡をお願い致します。

- ✿ 連絡先：日本リサーチセンター広報室 (information@nrc.co.jp)
- ✿ 担当：マーケティング事業開発チーム 井嶋

**掲載では必ず当社クレジットを明記していただき、
調査結果のグラフ・表をご利用の場合も、データ部分に当社クレジットの掲載をお願い致します。**